

長谷川 時雨全集

全五卷

長谷川時雨さんは、いつ見ても美しい人であつたが、しかし、古い東京の風俗や日本橋界隈の人情を語るるときほど、生き生きとして美しく見えたことはなかつた。

それは、春の鶯が、松でもなく竹でもなく、

まさしく梅の枝にとまつて、その所を得て鳴く

といつたやうなびつたりした感じであつた。

……神崎清（長谷川時雨略伝）より

不出版

長谷川時雨 『女人藝術』創刊のころ



復刻版

原著刊行……

一九四二（昭和一六）年

一九四二（昭和一七）年

解説……尾形明子

挿価格……

四万八〇〇〇円

（税込揃定価四万九、四四〇円）

文芸雑誌『女人藝術』『輝ク』で

女たちが集い、表現する場をつくり、

女の視点を貫いた作品群によって

戦前の文壇を代表する女性作家・

長谷川時雨の全貌を明らかにする！





復刻にあたって

●戦前期の文壇で活躍した女性文学者・長谷川時雨の著作集の復刻版。長谷川時雨は二八七九(明治二二)年東京日本橋生まれ。一九〇二年、『女学世界』に当選した小説「うづみ火」で文壇にデビュー、以後一九四(昭和二六)年に没するまで女性脚本家・小説家・評伝作家として第二線で活躍。とくに一九二八(昭和三三)年に『女人芸術』を主宰、廃刊後の一九三三(昭和八)年輝く会を結成、女性文化人のネットワーク作りに力を注いだ。

●本書は、時雨生前から計画されていた全集であるが、刊行されたのは没年の暮から翌年七月にかけてである。長谷川時雨の幅広く温かい人的交流を表わして、装丁は上村松園ら当時のそうそうたる画家五人が手掛け、編集も岡田八千代ほか時雨に縁の深い五人の女性作家によってなされている。

●長谷川時雨という類まれな女性の全体像を浮かび上がらせる全集全五巻を原本の形のまま月報も合わせて復刻し、近代文学研究、女性史・女性問題研究に資するものである。

長谷川時雨
二八七九～一九四一



長谷川時雨と岡田八千代(左)



大阪宣伝のとき
大阪婦人とともに、一九二八年(昭和三)



- 一八七九年(明治二二) 東京日本橋に生まれる。本名ヤス
- 幼少時は近所の寺子屋式小学校で読み書きそろばんを習う
- 一八九七年 鉄成金の息子と結婚
- 一九〇一年 「うづみ火」を『女学世界』に投稿、当選して増刊号の巻頭を飾る
- 一九〇四年 夫と別居、長谷川家へ戻る
- 一九〇五年 戯曲『海潮音』発表
- 一九一一年 歌舞伎座で「さくら吹雪」上演、劇作家の第一人者としての地位を不動のものとする
- 『青鞥』創刊される。賛助員となって劇作・劇評などを寄稿
- 一九二二年 楠山正雄・中谷徳太郎と演劇雑誌『シバ半』発刊
- 一九二八年 三上於菟吉と同棲
- 『美人伝』出版
- 一九二八年 『女人芸術』を創刊。林芙美子「放浪記」の連載開始
- 一九二九年 同誌に「日本橋」を連載
- この頃アナ・ボル論争
- 一九三〇年 鐘紡争議起こる
- 『女人芸術』連続発禁
- 一九三三年 『女人芸術』廃刊
- 一九三三年 女性文化人の団体「輝く会」創立。機関誌「輝く」創刊
- 一九四一年 死去。享年六二歳

不二出版
刊行の
関連図書



長谷川時雨 主宰

女人藝術

総48冊・別冊1・付録1

- 昭和3年(昭和7年)刊
- 別冊 解説(紅野敏郎)・総目次・索引
- 付録 『女人大家』36冊
- A5判・並製・函入・総9,400頁
- 本体揃価格 150,000円

すべて女性の手になる女性の雑誌として発刊された本誌は、多くの女流作家を世に送り出すとともに、婦人の文化的・政治的啓蒙誌として重要な役割を果たした。



長谷川時雨 主宰

輝く

全2巻・別冊1

- 昭和8年(昭和16年)刊
- 第一巻 『輝く』全二〇二号
- 第二巻 『輝く部隊』海軍の銃後『海の勇士慰問文集』
- 別冊 『回想(若林つや)・解説(尾形明子)・総目次・索引』
- B5判・A5判・上製・函入・総1,278頁
- 本体揃価格 25,000円

長谷川時雨が組織した「輝く会」の機関誌である本誌は、当時のほとんどすべての女性作家・思想家・芸術家が原稿や近況を寄せ、十五年戦争下の女性文化人の状況を照らし出す。



長谷川時雨 主宰 女人藝術

総48冊 別冊1 付録1
○昭和3年(昭和7年刊)
○別冊 解説(紅野敏郎)・総目次・索引
○付録 『女人大衆』36冊
○A5判・並製・函入・総9,400頁
○本体揃価格 150,000円
すべて女性の手になる女性の雑誌として発刊された本誌は、多くの女流作家を世に送り出すとともに、婦人の文化的・政治的啓蒙誌として重要な役割を果たした。



長谷川時雨 主宰 輝夕

全2巻 別冊1
○昭和8年(昭和16年刊)
○第一巻 『輝夕』全102号
○第二巻 『輝夕部隊』海の統後『海の勇士慰問文集』
○別冊 回想(若林つや)・解説(尾形明子)・総目次・索引
○B5判・A5判・上製・函入・総1,278頁
○本体揃価格 25,000円
長谷川時雨が組織した「輝夕会」の機関誌である本誌は、当時のほとんどすべての女性作家・思想家・芸術家が原稿や近況を寄せ、十五年戦争下の女性文化人の状況を照らし出す。

佐多稲子

作者

まれにみる大きな女性



●長谷川さんとそれほど親しかったわけではないけれど、お目にかかった時のことは、殆どみんなはつきりと覚えている。それは長谷川さんの人物の印象が強いということであろうが、それ以上に、その時逢った人間の心には、はつきりと納得させるような心づかいをする人であったからであろう。そして私の心には、長谷川さんは、大変鮮やかであった『旧聞日本橋』の雰囲気がいままで残っていて、『女人芸術』をやっていたような意味と、『旧聞日本橋』の生活はまるきり違うのに、それが長谷川さんの姿の中で美しく調和していた。

●一度、舞踊のことを語る座談会で御一緒になったことがあるが、三味線のことで見解が違った時、長谷川さんはとても気持のよい、強い態度で反対された。もの柔かな長谷川さんのいつもの態度しか知らぬ私には珍しいことだったけれど、大変すがすがしい記憶として残っている。そういうふうには、不必要なこだわりを自分も持たず、相手にも感じさせない人であった。

●長谷川さんは包容力のある大きな人であったので、亡くなられた直後、急にあたりが淋しく思われるほどだった。やや古風で美しく、それでいて潤達であった長谷川さんの存在は、私たちの心にある華やかさを感じさせていたようである。

●その長谷川さんが亡くなられてから早くも半世紀経ち、女性たちがさまざまに分野でいきいきと自己表現できる時代になった。そうした今日、昭和の『青鞥』といわれた『女人芸術』を発刊してわたしたちの才能の開花に貢献した長谷川時雨の全集が復刻され、先駆的な仕事が見直されることは、まことに意義深いことである。多くの女性たちに読まれることを切にのぞみたい。



叢書『青鞥』の女たち

全20巻
○函入・総7,718頁
○本体揃価格 120,000円(品切)
平塚らいてう・伊藤野枝・長谷川時雨をはじめ、一九二〇、二〇年代に活躍した『青鞥』及びその周辺の女性たちの代表的著作二〇点を集め、解説を付して復刻する。



平塚らいてう・伊藤野枝 主宰 青鞥

総52冊 別冊1
○明治44年(大正5年刊)
○別冊 解説(井手文字)・総目次・索引
○A5判・並製・函入・総8,824頁
○本体揃価格 120,000円
『元始女性は太陽であった』(平塚らいてう)、『山の動く日』(来たる)、『与謝野晶子』で知られる『青鞥』は、女性の自我・家からの解放を求め、近代日本の女性解放史の原点となった。

紅野敏郎

早稲田大学名誉教授

時はまさに満ち潮

長谷川時雨の熱烈な愛好者、日本橋小舟町に住む森下真理さんに



佐多稲子

〈作家〉

まれにみる大きな女性

●長谷川さんとそれほど親しかったわけではないけれど、お目にかかった時のことは、殆どみんなはつきりと覚えている。それは長谷川さんの人物の印象が強いということであろうが、それ以上にその時逢った人間の心には、はつきりと納得させるような心づかいをする人であったからであろう。そして私の心には、長谷川さんは、大変鮮やかであった『田間日本橋』の雰囲気がいままで残っていて、『女人芸術』をやつていられたような意味と、『田間日本橋』の生活はまるきり違ふのに、それが長谷川さんの姿の中で美しく調和していた。

●一度、舞踊のことを語る座談会で御一緒になったことがあるが、三味線のことと意見が違つた時、長谷川さんはとても気持のよい、強い態度で反対された。もの柔かな長谷川さんのいつもの態度しか知らぬ私には珍らしいことだつたけれど、大変すがすがしい記憶として残っている。そういうふうには、不必要なこだわりを自分も持たず、相手にも感じさせない人であった。

●長谷川さんは包容力のある大きな人であったので、亡くなられた直後、急にあたりが淋しく思われるほどだった。やや古風で美しく、それでいて潤達であった長谷川さんの存在は、私たちの心にある華やかさを感じさせていたようである。

●その長谷川さんが亡くなられてから早くも半世紀経ち、女性たちがさまざまな分野でいきいきと自己表現できる時代になった。そうした今日、昭和の『青鞥』といわれた『女人芸術』を発売して女たちの才能の開花に貢献した長谷川時雨の全集が復刻され、先駆的な仕事が見直されることは、まことに意義深いことである。多くの女性たちに読まれることを切にのぞみたい。



紅野敏郎

〈早稲田大学名誉教授〉

時はまさに満ち潮

●長谷川時雨の熱烈な愛好者、日本橋小舟町に住む森下真理さんに逢つたこと、また早大の図書館に『女人芸術』が相当多量にそろつていたので、尾形明子さんにその領域の研究をと勧めたこと、それらがいくつか重なり、さらに時雨の甥の長谷川仁さんから『女人芸術』をはじめとする時雨関係資料を日本近代文学館に寄贈して頂くという幸運もあり、時雨に対する関心は一挙に爆発、時雨研究は確実に前進した。そこで必要になってくるのは時雨全集の刊行である。本来ならば新しく編みなおし、全集の名に真にふさわしいものにしたてて欲しいところである。しかし復刻版でも出ないよりは出るに越したことはない。長谷川時雨本人と彼女をとりまく女性文学者の群れは、大正末から昭和初期という時代の象徴的存在と言つてよからう。

●苦澁と華麗をないあわせつつ、潤達におおらかに生き抜いた時雨の、昭和文学史に残した足跡をしかと見きわめる生前の豪華な全集、それを活用しないで昭和文学の研究とは胸を張つては言えない。作家の岩橋邦枝さん、ま全力を傾け、時雨の人間の、文学的魅力をひき出す作品を書いている。時はまさに満ち潮、この復刻をバネに、さらに新しい、完全な時雨全集刊行まで突入していただきたい。



長谷川時雨全集



平塚らいてう・伊藤野枝 主宰

青鞥

総52冊・別冊1

- 明治44年〜大正5年刊
- 別冊―解説(井手文字子)・総目次・索引
- A5判・並製・函入・総8,824頁
- 本体揃価格 120,000円

「元始女性は太陽であった(平塚らいてう)」「山の動く日米たる(与謝野晶子)で知られる『青鞥』は、女性の自我、家からの解放を求め、近代日本の女性解放史の原点となった。



叢書『青鞥』の女たち

全20巻

- 函入・総7,718頁
- 本体揃価格 120,000円(品切)

平塚らいてう・伊藤野枝・長谷川時雨をはじめ、一九一〇、二〇年代に活躍した『青鞥』及びその周辺の女性たちの代表的著作二〇点を集め、解説を付して復刻する。



神近市子 主宰

婦人文芸

全10巻・別冊1

- 昭和9年〜昭和12年刊
- 別冊―解説(黒澤亜里子)・総目次・索引
- 菊判・上製・函入・総6,362頁
- 本体揃価格 150,000円

女性文芸雑誌が相次いで終刊になった一九三〇年代、女性の表現の場として求められた本誌は、単なる文芸雑誌に終わらず、フェミニズムを意識した雑誌となっている。



尾竹一枝 主宰

番紅花

全2巻

- 大正3年3月〜8月刊
- 解題(渡辺澄子)・総目次・索引付き(特装版のみ別冊)
- 菊判・総1,408頁
- 本体揃価格 18,000円(上製合本版・函入)
- 35,000円(各号並製特装版・映入)

青鞥社を退社した尾竹一枝が、小林哥津、神近市子らとともに創刊した本誌は、東西の音楽、演劇、美術の紹介等、尾竹の初々しい興味と個性がいきな『純芸術雑誌』である。

お星さまの出でゐた晩か、それとも雨のふる夜だつたか、あとで聞いても誰も覚えてゐないといふから、まあ、あたりまへの、暗い晩だつたのであらう。とにかく、わたくしといふものが生れた。

戸籍は十月の一日になつてゐるが、九月廿八日だとか廿九日だとか、それもはつきりしない。次々と妹弟が生まれたので、忘れられてしまつたのか、とにかく、露の夜ごろ、蟲の音のよいころではあるが、あいにく、武藏野生れでも、草の中へも、木の下でも生まれず、いつて平凡に、市中の、ある家の藏座敷で生をうけた。明治十二年、日本橋區通油町壹番地。ちつぽけな、いやな赤ん坊だつたので、何處からか歸つて來て見た父は、片つぽの手にとつて見えず、突きかへしたと、よく母が言つてゐた。

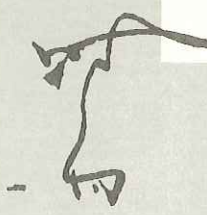
父には三人目の子、母には初兒だが、わたくしが生れたときには姉も兄も、みな幼死してゐなかつた。清潔すぎで、身綺麗だつた祖母に愛されたとはいへ、祖母はもう七十三歳にもなつ

樋口一葉

一

秋にさそはれて散る木の葉は、いつとてかぎりないほど多い。ことに霜月は秋の末、落葉も深からう道理である。私がここに書かうとする小傳の主一葉女史も、病葉が、霜の傷みに堪得ぬやうに散つた、世に惜まれる女である。明治二十九年十一月二十三日午前、この一代の天才は二十五歳のほんの短い、人世の半にやうやく達したばかりで逝つてしまつた。けれど布は幾百丈あらうともただの布であらう。蜀紅の錦は一寸でも貴く得難い。命の短い一葉女史の生活の眞には、それこそ私達がこれからさき幾十年を生伸びようとも、とても片鱗にも觸れることの出来なものである。一葉女史の味はつた人世の苦味、諦めと、負じ魂との試煉を経た哲學——

信實のところ私は、一葉女史を畏敬し、推服してもゐたが、私の性質として何となく親しみがたく思つてゐた。虚偽のない、全くの私の思つてゐたことで、もし傍近くに居たならば、チクチ





鍋木清方

小説

【第一卷】

治国女性記
 仇討秋風帖
 新じゃがたら文
 月琴指南
 御奉公
 東京開港



藤田嗣治

女性伝

【第一卷】

春帯記
 おふうちやん
 田沢稲舟
 モルガンお雪
 江夏歌子
 高間筆子
 操子ときみ子
 市川九女八
 久野久子
 遠藤清子
 江木欣々女史
 朱絃舎浜子
 おいし姐御とその党



上村松園

美人伝

【第二卷】

近代美人伝
 序
 マダム貞奴
 樋口葉
 鹿島恵津子
 竹本綾之助
 大橋須磨子
 松井須磨子
 九条武子
 名婦伝
 千日女
 伊賀の局
 慧春尼
 津田勝子
 芳春夫人松子
 瓜生岩子
 奥村五百子



前田青邨

随筆

【第四卷】

一葉評釈
 女性とチャーナリズム
 明治大正の婦人
 講演
 海南島風景
 南支那から帰つて
 随筆
 餅外三十二篇
 遺稿
 暁
 夏日断片
 初秋
 新家庭訓



長谷川時雨全集

全五卷

戯曲

【第五卷】

脚本
 桜吹雪
 丁字みだれ
 花王丸
 竹取物語
 つくしの空
 手児奈
 神風
 うづみ火(処女作)
 渡り切らぬ橋(自伝遺稿)
 長谷川時雨略伝……神崎清
 作品年表・著書目録……長谷川仁
 舞踊曲
 弟橘媛
 空華
 あかつき
 春怨



梅原龍三郎



婦人の伝記を貞女烈婦の紋切り型から人間記録の方向へ持つてきて
女性史に新しい転回を与へたのは、紛れもなく時雨さんの功績である。
また、芸者や女芸人の特殊な存在を所謂名流婦人と同じ資格で
とりあげたこと、女性の解剖に女でなければわからない
鋭い直覚が働いてゐたことなども、時雨さんの美人伝の根本的な
特色であつた。……神崎清(長谷川時雨略伝)より

長谷川 時雨全集

復刻版
概要 B6判 上製 貼り箱入 総二二七二ページ

- 体裁
- 原著
- 全五巻
- 原著
- 第一巻……………小説…………… 円地文子・編集…………… 筒木清方・装幀
- 第二巻……………女性伝…………… 森三千代・編集…………… 藤田嗣治・装幀
- 第三巻……………美人伝…………… 岡田八千代・編集…………… 上村松園・装幀
- 第四巻……………随筆ほか…………… 真杉静枝・編集…………… 前田青邨・装幀
- 第五巻……………戯曲ほか…………… 岡田禎子・編集…………… 梅原龍三郎・装幀
- 付録……………解説(尾形明子)
- 挿価格

四万八、〇〇〇円(税込挿定価四万九、四四〇円)



●本カタログ中の表示価格は
全て消費税を含んでおりません。
●弊社は注文制です。
お近くの書店にご注文ください。

不二出版(株)

〒113 東京都文京区向丘1-2-12
電話 03-3812-4433
フクニミ 03-3812-4464
振替 口座 6-94084

1993-6

「うつみ火」といふ題名が象徴してゐるやうに、表にあらはれないで、
胸のうちで人知れず燃えてゐる女性の情熱の火を思ひ切つて
つかみ出してきたところに、時雨さんの勇気があり、家族制度に
こびりついた古い因襲を破らうとする新しい時代の女性の
気運があつた。しかし、反対にまたその情熱の火を爆発させず、
あくまで灰の下にうづめておかうとしたところに、時雨さんの美しい
保守主義があり、日本の伝統の強い支配があつた。……神崎清(長谷川時雨略伝)より